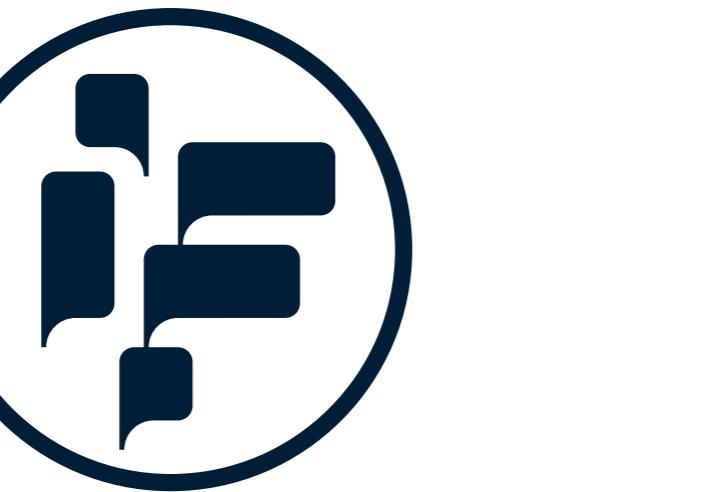




if design project

茨城未来デザインプロジェクト



if design project

茨城 未来 デザイン プロジェクト

INTRODUCTION

if design project とは

3

PARTICIPANTS

参加者属性

9

PROJECT

これまでのプロジェクトテーマ

11

MENTOR

これまでのメンター

15

PROGRAM

約3ヶ月のプログラム

17

OUTPUT

各チームの提案

23

AFTERWARDS

参加者のその後

29

INTERVIEW

参加者インタビュー

31

EXPANSION

if design project の広がり

33

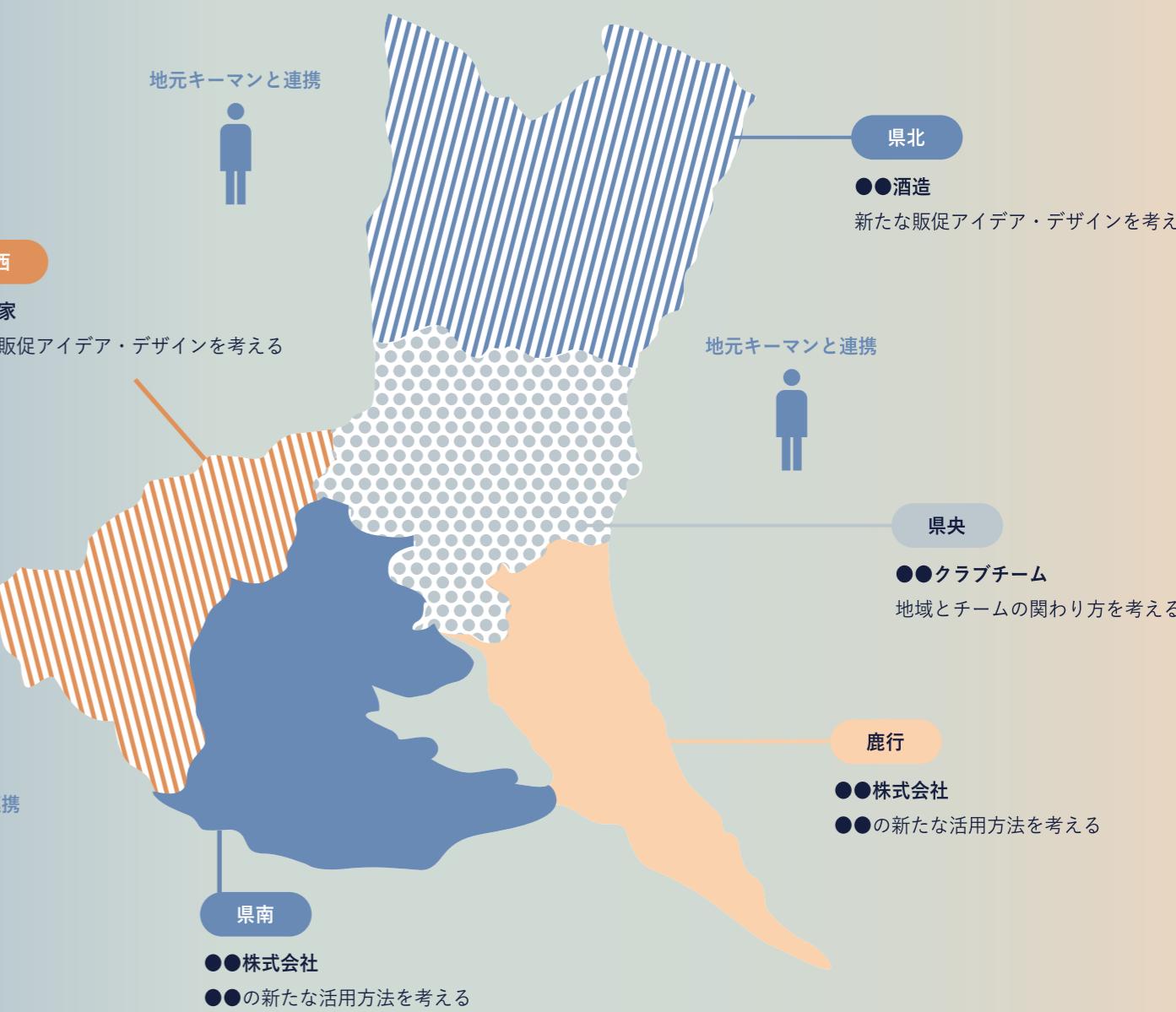
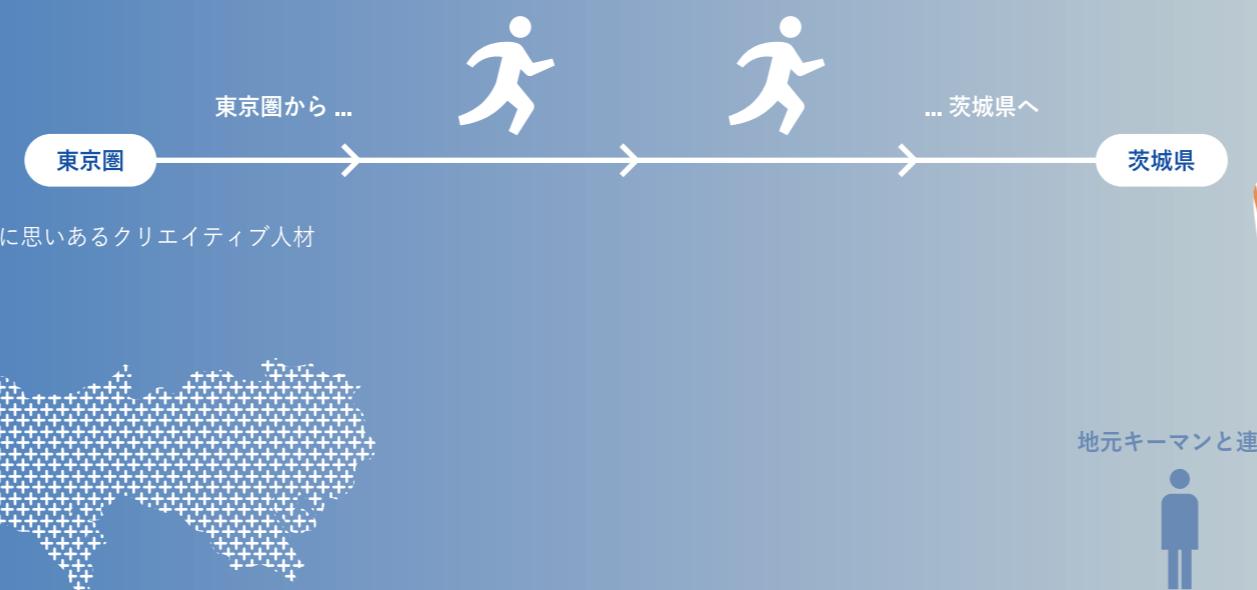
INTRODUCTION if design project とは？

あなたの”もし…“が、茨城の未来を変える。 フィールドワーク + 講義 + ワークショップ による実践型デザインプロジェクト

もしも茨城県が、魅力度ランキング全国1位になるならば…
もしも茨城県が、世界一住みやすいエリアに選ばれるならば…
そんな夢みたいなことを茨城県は本気で考えています。
その発端があなたの考えたアイデアから信じて。

if design project では、日本を、茨城を、地域を良くしようと活動を続ける様々な地元企業のリアルな課題や茨城の魅力を、フィールドワークを通して学び、異なるバックグラウンドを持つ東京圏の人材たちと共に課題解決の企画を行います。

約3ヶ月間、茨城と東京で、「もし」自分たちだったら何をやるか、
何ができるかを企画・デザインしていくプロセスを通して、東京圏の意欲ある人材が、
茨城との深い関係をつくると共に、地方を支える地元企業への、実践的な企画を通じて、企画力を育み、一緒に企画・実行する仲間を見つけ、自らの今後の働き方、生き方を問い合わせていきます。



01

想いある人同士の横のつながりをつくる

地元企業 × 自治体 × 熱量のある参加者

茨城県内で、すでに様々な活動をしている地域のプレイヤー、企業、自治体。そして本プロジェクトの参加者。そんな人たちが共創し合い、ここでしかできない繋がりができることを期待しています。

02

企画や事業の起し方を学ぶ機会をつくる

リアルな地方の魅力・課題を感じる

地域のフィールドワークやリサーチ、実績のあるメンター陣から企画や事業の考え方を学ぶプログラムを用意し、自身の活動の場でも活かせる学びを提供します。

03

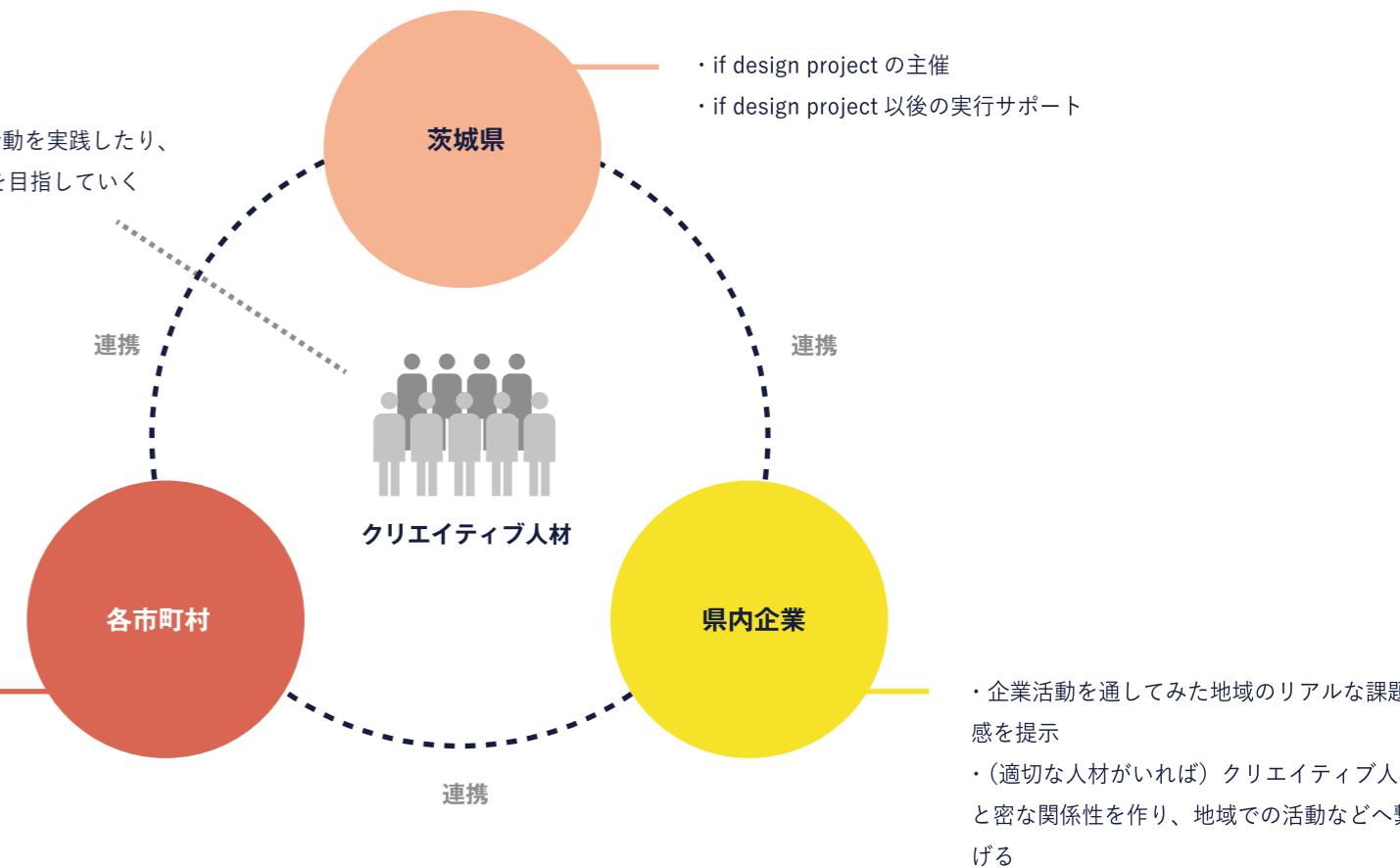
実践型プレイヤーの創出と育成を目指す

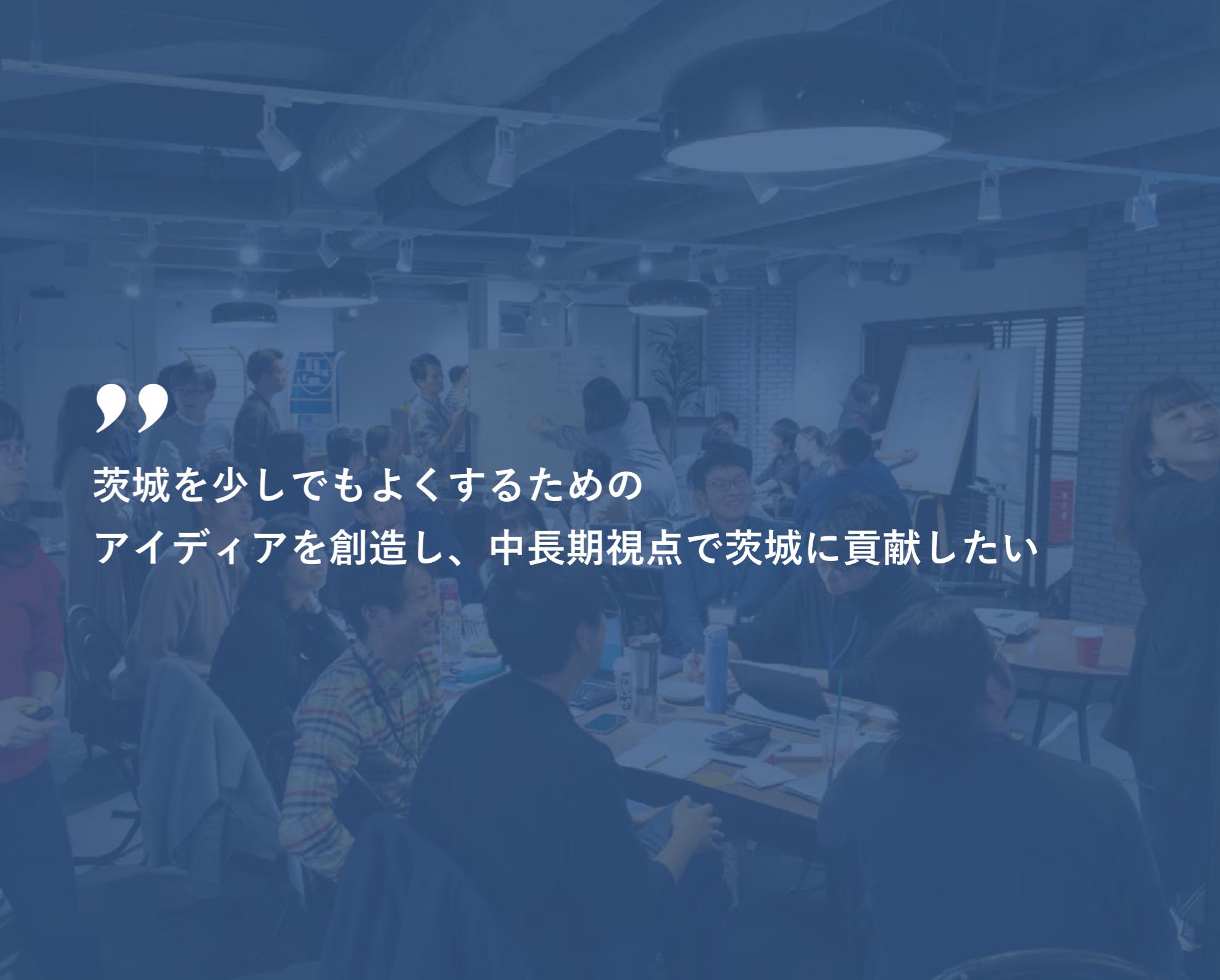
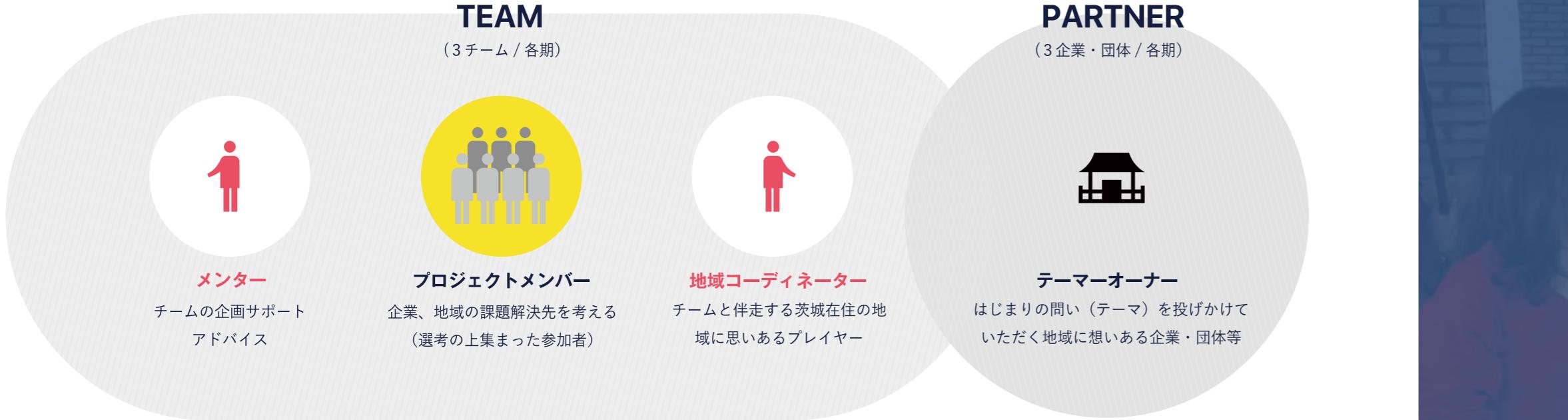
地元企業との継続的な関わりを目標に

「自分たちならどうする？何ができる？」を軸とした企画を考え、本プログラム終了後も自分たちで実践していきたいと思えるプロジェクトを生み出し、地域との持続的な関係構築を目指します。



if design project は、県・市町村・テーマオーナー（県内の企業・団体等）が手を取り合うことで、地域に関わる人材を生み出し、深い関係人口創出や二地域居住・移住へつなげることを目指しています。





“
茨城を少しでもよくするための
アイディアを創造し、中長期視点で茨城に貢献したい

PARTICI-PANTS



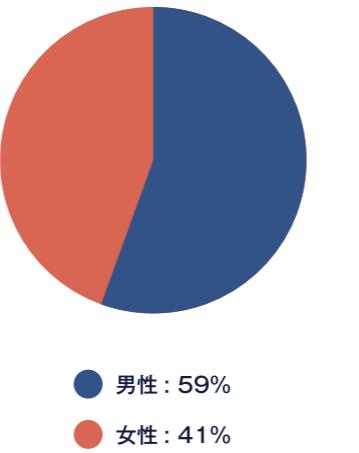
参加者属性

茨城で働き、生活をするイメージが今は持てないため、今回のプロジェクトを通じて茨城で生活することを考えみたいと思っています。

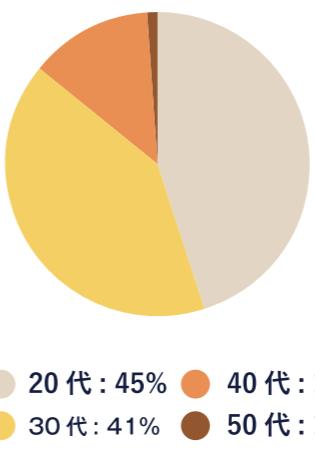
自分が近い将来実践していくことを想定して、茨城と東京の関係を新たに作りたい

今回のプロジェクトを通じて、茨城で自立して暮らす方法を考えながら関与していきたい

69名
参加者（第1-3期）



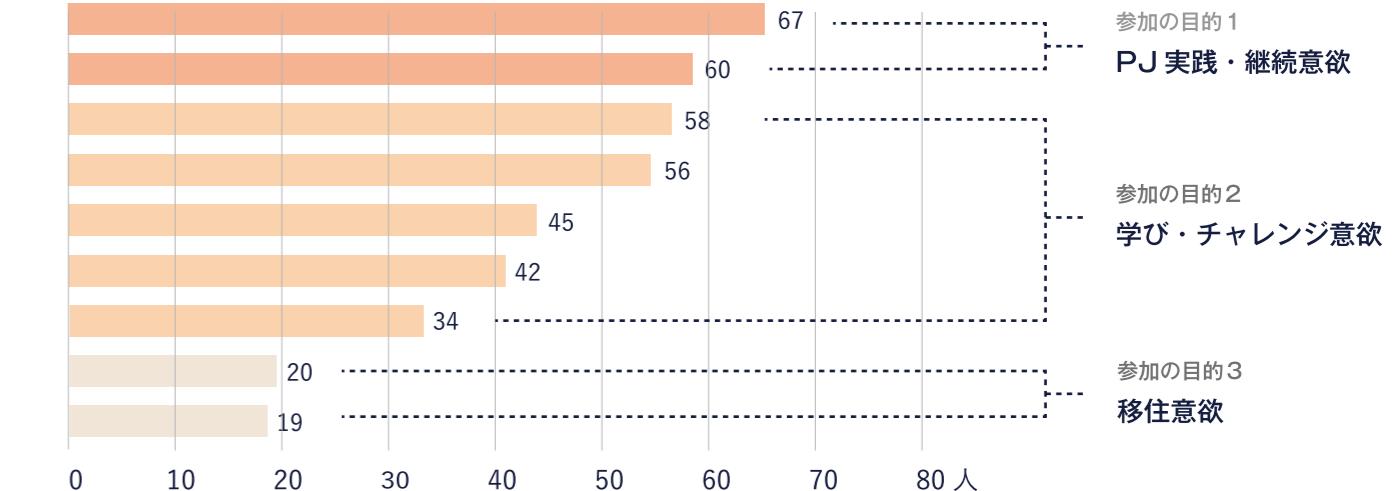
124名
応募総数（第1-3期）



参加条件	熱意とスケジュール通り参加できること
募集人数	例年 15 ~ 20 人程度
参加費用	3 万円

- クリエイティブディレクター
- 公務員
- デザイナーなどフリーランス
- 出版社
- 総合商社や広告代理店等の会社員
- 看護師
- 大学生／大学院生
- プランナー・マーケター

地方でPJを創る経験をしたかった
PJを創り、その実践までしたい
自身の仕事に活かすため
様々な人でアイデアを創る過程が好きなため
仲間をつくりたかった
パートナー企業やテーマ自体に興味があった
企業に自分のアイデアを提案してみたかった
茨城や地方で独立して起業を考えているため
将来茨城に移住したく、仕事をつくりたかった





2018年度（第1期）



スポーツ x 地域

廃校を活用したクラブハウスやスポーツを軸とした地方創生プランを企画

テーマオーナー：水戸ホリーホック
クラブチームの地域貢献活動の在り方を廃校を利用したクラブハウス「ツツマーレ」のさらなる活用も踏まえ検討していった。



食 x 地域

「笠間の栗」地域ブランド確立へ総合的なブランディング案を企画

テーマオーナー：あいきマロン
認知度に課題感のある笠間の栗を「知名度日本一の栗」にしていくため、「笠間の栗」自体の「伝え方」を、マーケティング・プロモーション、キャッチコピー等、様々な面から検討していった。



山 x 地域

歴史と伝統ある筑波山
新たな人の誘引策を企画

テーマオーナー：日升庵
関東平野唯一の百名山である筑波山に、観光だけにとどまらない観点から、これまでにない層の人や企業を誘引する企画を考えていった。

2019年度（第2期）



酒 x 地域

茨城から酒と人と地域の新しい関係をつくる

テーマオーナー：明利酒類
関東一酒造数が多い県で、約160年以上続く確かなモノづくり力を持った明利酒類のお酒を軸とし、多くの人に明利酒類や茨城の酒を伝え、ファン化へのアイデアを検討していった。



農 x 地域

農を通じた都市と地方の関係をデザイン

テーマオーナー：宮崎協業
6次産業化を進める宮崎協業の農業を軸にしながら、今の農業を知ってもらい、体験してもらうなど、農業を通じて、結城との関係をつくるためにどうすればよいか、検討していった。



海 x 地域

通年楽しめる海の未来をデザイン～海水浴の次をつくる～

テーマオーナー：大洗観光協会
海水浴客が減少傾向である大洗の海において、大洗の多様な資源を生かし、海水浴だけに頼らず、通年楽しむ海の未来を検討していった。



祝い x 地域

「祝いごと」を通じた都市と地方の新たな関係性をつくる

テーマオーナー：小野写真館
新しい生活様式が求められている今だからこそ、茨城県から「祝う」そのものの行為のデザインをはじめ、新しい「祝い」の文化をつくっていくことを検討していった。



空 x 地域

目的地として愛される新しい「茨城の空の玄関口」をつくる

テーマオーナー：Omitama Shigoto
空港周辺が利用者にとっての通過点となっている課題を抱える空港周辺エリアの更なる発展に向け、目的地としても愛される空の玄関口となるための仕組みやコンテンツ等を検討していった。



ツーリズム x 地域

県外からも人が訪れる霞ヶ浦ならではの最高の体験をつくる

テーマオーナー：かすみがうら未来づくりカンパニー
「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が走り、国内2位の大きさを持つ湖のあるかすみがうらで、本地域の交流・関係人口をより増やしていくため、ここならではの「最高の体験」づくり等について検討していった。

MENTOR

これまでのメンター

そのテーマ・課題感に精通し、既に様々な分野で活躍する人たちを
メンターとしてアサイン。各テーマの企画づくりにアドバイスをもらう。



坂口 淳

スポーツ

AS,inc. 代表

大手私鉄入社後、沿線の街づくりでスポーツ施設の開発運営に携わり 2003 年に独立。現在はサッカースクールで子供たちの育成と、スポーツ施設開発やスポーツによる街づくりを行う。



徳田 祐司

食

クリエイティブ・アートディレクター

武蔵野美術大卒業。電通、オランダのクリエイティブエージェンシーを経て、2007 年、デザインエージェンシー、canaria を設立



金子 愛

山

株式会社 R.project 執行役員

よりビジネスの視点で地域を盛り上げること、コミュニティをつくることに使命を感じ、2015 年 1 月に株式会社 R.project に参画。



石川 俊祐

酒

kesiki inc 共同創業者／パートナー

英国 AZUMI スタジオ、パナソニックデザイン、PDD イノベーション UK 等を経て、IDEO Tokyo の立上げ参画。デザインディレクターとして多様なプロジェクトを担った



井本 喜久

農

株式会社 The CAMPus BASE 代表取締役

インターネット農学校 The CAMPus を運営。全国の様々な地域で限界集落や耕作放棄地などを再生するプロジェクトをプロデュース中。



馬場 未織

海

ライター／NPO 法人南房総リパブリック理事長

2007 年より「平日は東京、週末は南房総」という二地域居住を家族で実践。2011 年より農家や建築家、教育関係者、市職員らと南房総リパブリックを設立。



山川 咲

祝い

株式会社 CRAZY を創業。

現在は起業家として新たな世界に挑んでいる。2016 年 5 月に毎日放送「情熱大陸」に出演。著書に『幸せをつくるシゴト』(講談社)。



古田 秘馬

空

プロジェクトデザイナー。株式会社『umari』代表。「丸の内朝大学」などの数多くの地域プロデュース・企業プランディングなどを手がける。



大瀬良 亮

ツーリズム

KabuK Style 株式会社 共同代表

2018 年からつくば市役所にてまちづくりアドバイザーとして広報戦略を担当。2018 年 11 月「世界を旅して働く。HafH」リリース。

PROGRAM

約3ヶ月のプログラム



第1期

DAY1

フィールドワーク

実際に現地に行くことで、地域の魅力や課題を感じる。



第1期

DAY2

ワークショップ

フィールドワークした上で、現状の地域の魅力や課題の整理の他、企画に向けたリサーチを進める。



第1期

DAY3

ワークショップ

中間の折り返し地点。コンセプトをある程度つくり、詳細をまとめていく。



第1期

DAY4

ワークショップ

公開プレゼンテーションに向けた準備段階。ブランドとなるロゴ制作や実際に試行実験として、現地でイベント等を開催するチームも。

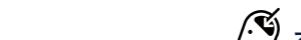


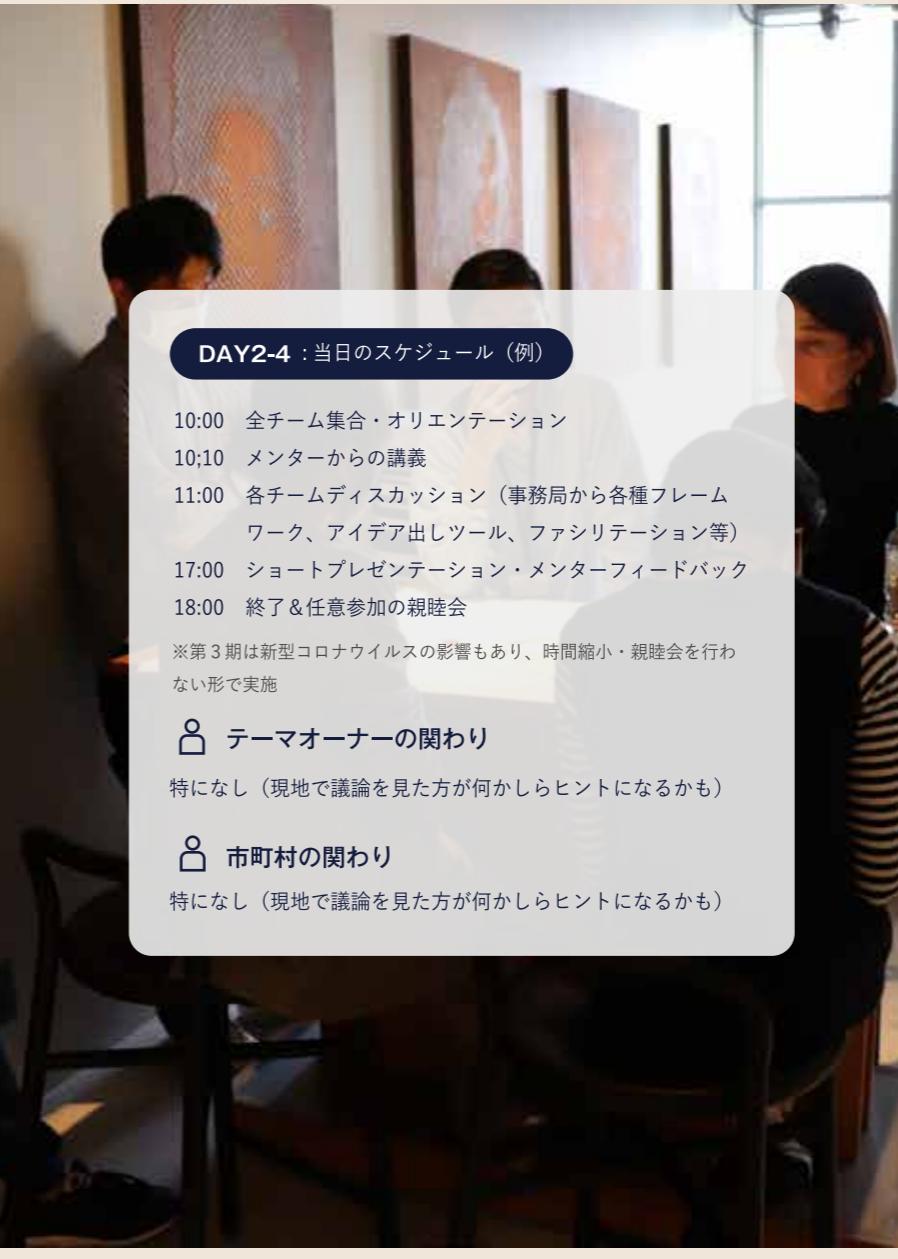
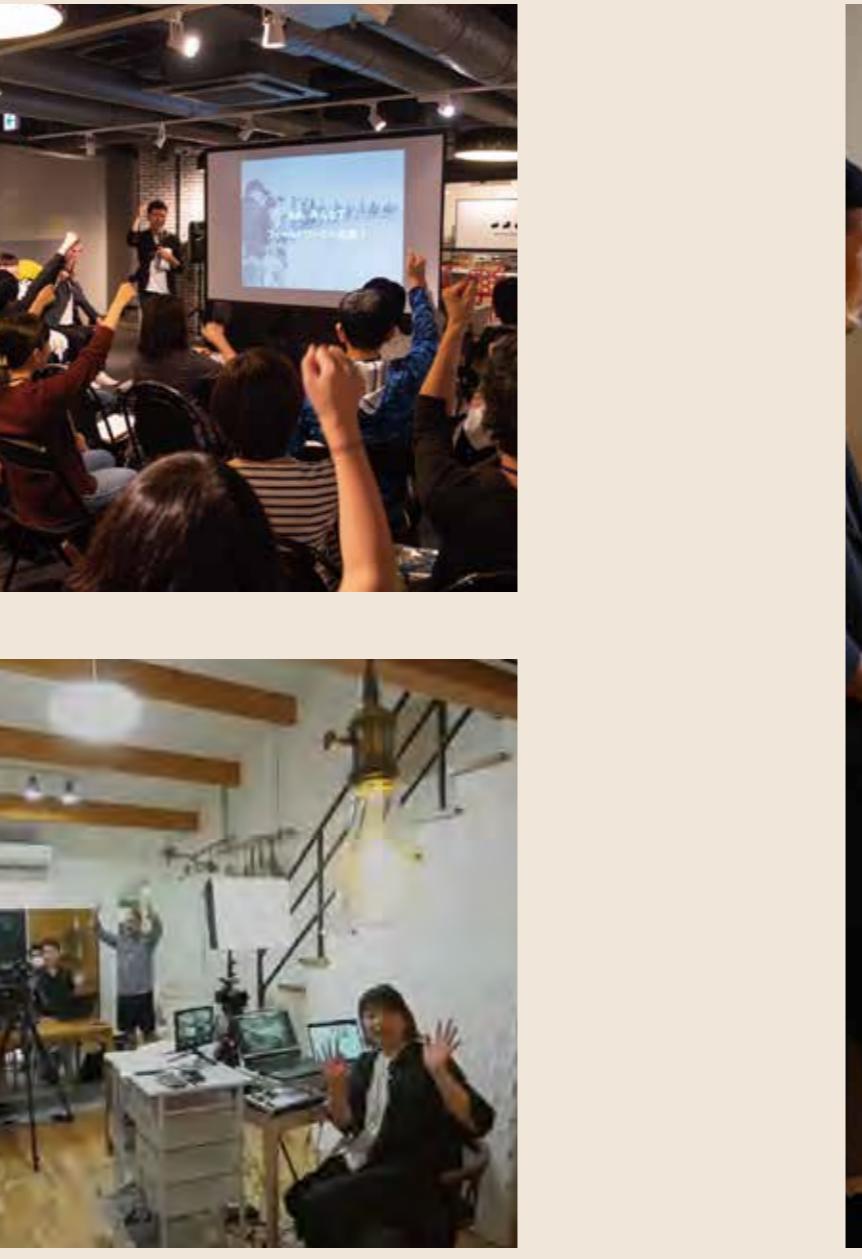
第2期

DAY5

公開プレゼンテーション

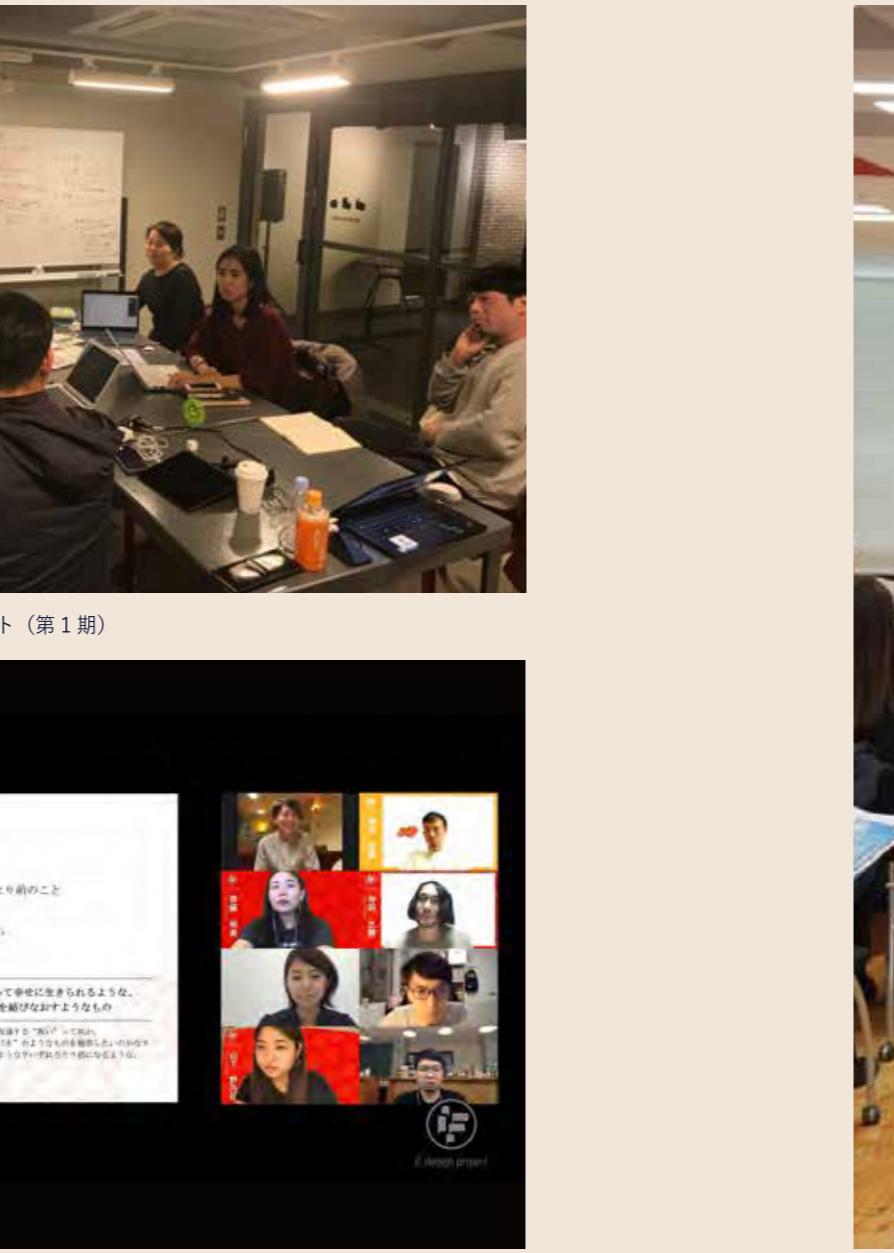
実践に向けて、地域側に想いを伝える。



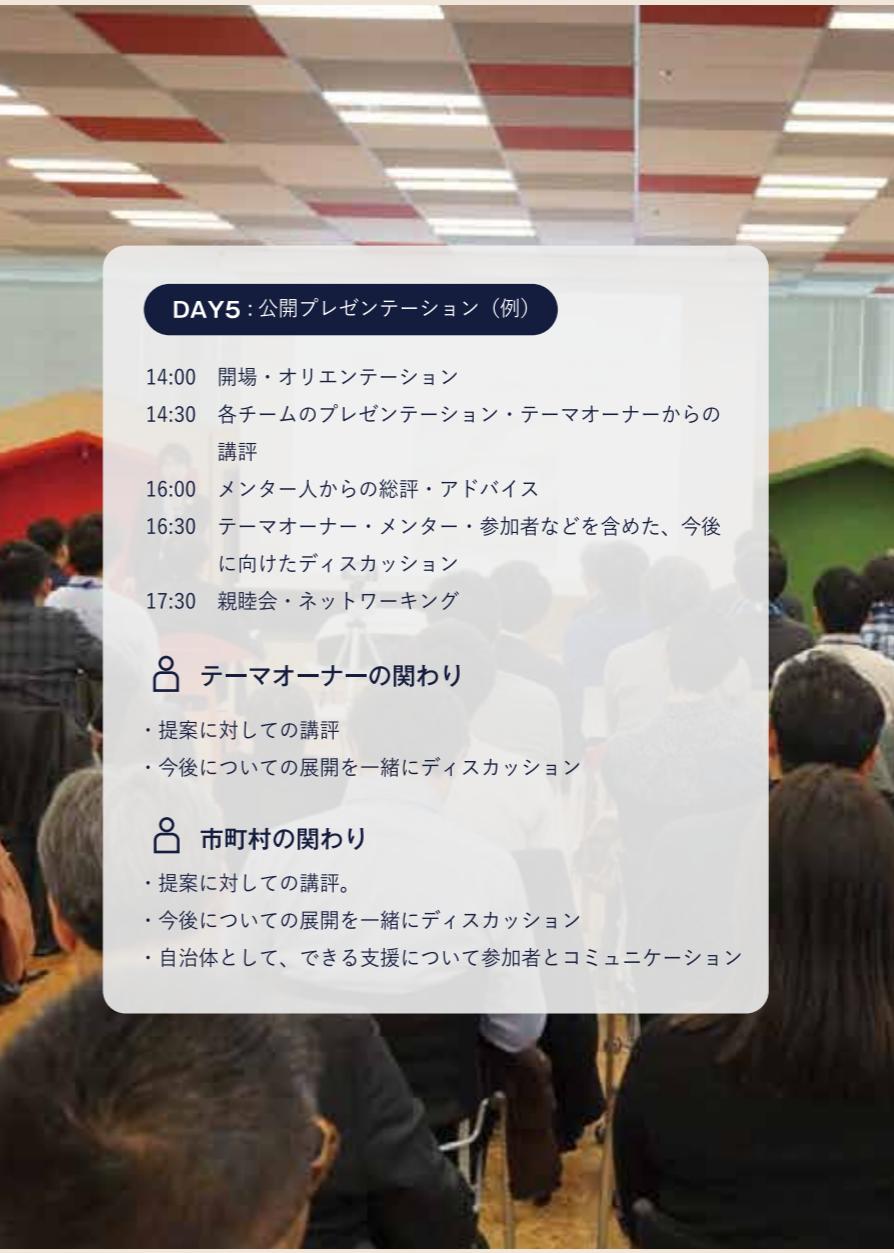




メンターのオフィスでのディスカッション（第2期）



メンターからのフィードバックをもらうオンラインゼミ（第3期）



Yahoo! LODGE でのプレゼンテーション（第1期）



ステージでのプレゼンテーション（第3期）



2018年度（第1期）



スポーツ x 地域

地元の人とコラボレーションしてつくる
フットボールパークを提案

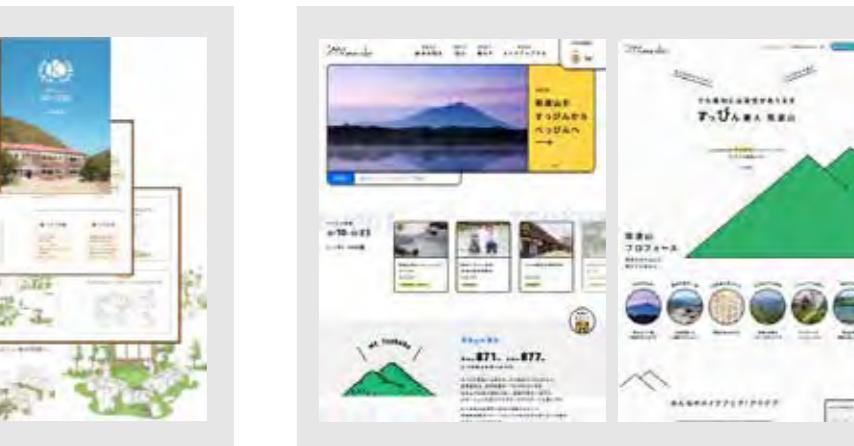
プログラム期間中に、実際に地元のキーマンとつながり、自分たちの企画の実現性を高めたうえで、地元の人たちと共に創していくフットボールパークを提案。提案前に試行実験を現地で行った。



食 x 地域

地域ごとに特色のある「笠間の栗」の
魅力を伝える仮想の学校プロジェクト

笠間の栗農家等へのヒアリングを通し、様々な品種がある「笠間の栗」を収穫体験、料理教室などを通して学ぶ場づくりを提案。入学案内やロゴ等の高いクリエイティブを披露した。



山 x 地域

筑波山のプラットフォームとなる
WEB やアプリを提案

筑波山の魅力は点在し、どこにいけばその情報がとれるか曖昧な課題があるなか、その情報プラットフォームとなる WEB サイトやアプリを実際につくり、披露

2019年度（第2期）



酒 x 地域

1本のお酒だけを提供する 場づくりやアプリ等への展開を企画

じっくりと茨城県の1本の日本酒に向き合い、じっくり味わってもらうお店「いっぽんのお酒、」を企画。その後のコンテンツやアプリ展開まで提案。



農 x 地域

結城の農を絡めた「モノ・コト・バ」 を企画

「畑」と「食卓」を結びなおすをビジョンに掲げたプロジェクト・会社設立を企画。「モノ・コト・バ」幅広い事業展開を提案。



海 x 地域

大洗の地域性を捉え直し、再編集。 イベントからグッズ・アプリ展開を企画

町のエリア特性を捉え直し、多様な大洗という町を「大洗カオス」というコンセプトのもと、再編集していくコンテンツや商品を企画、イベント実施を提案。



祝い x 地域

自分の内面と向き合う プログラムを企画

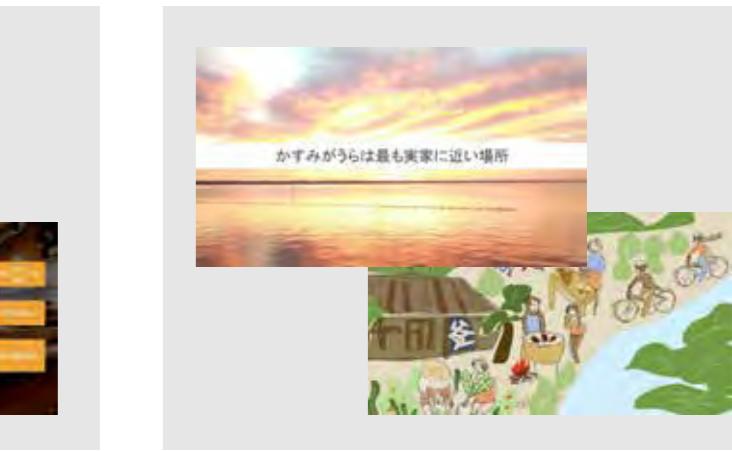
多様な情報や価値観に触れすぎてしまう現代社会。そんな時代の「祝い」の出発点はまずは「自分を愛すること」と定義づけ、自己省察のプログラムを企画



空 x 地域

10分で地域が楽しめる！ 小美玉ファストクラス！

電車のように乗れ、滞在する時間が短い茨城空港の特徴を逆手にとり、10分で小美玉や茨城の体験や風土を感じられるコンテンツ「小美玉ファストクラス」を企画。



ツーリズム x 地域

旅は非日常から日常へ。 新たなツーリズムは「帰省」から。

コロナ禍を経て、ツーリズムは非日常ではなく、日常を求めるものとなったと定義づけ、霞ヶ浦に帰省するための「実家づくり」プロジェクトを企画。



if design project の「県内からの参加要望」が多かったこと、「東京圏のプレイヤー」と「茨城のプレイヤー」の接点の場をつくりたかったことから、1泊2日版の if design project を開催。

「阿字ヶ浦の海を活用した新しいコト・サービスを企画する」
(テーマオーナー：イバフォルニアプロジェクト)

というテーマ設定のもと、県内・県外から 15 名の参加者にて実施した。(参加料：5 千円)

以下のスケジュールで集中してアイデアをつくりあげた。

【1日目】

- 9:30～ 勝田駅に集合・オリエン
- 9:45～ フィールドワーク
- 13:00～ ランチ
- 13:45～ メンターから講義
- 15:00～ 企画ワークショップ①
- 18:30～ ショートプレゼン
- 19:00～ 懇親会 阿字ヶ浦に宿泊

【2日目】

- 9:00～ ビーチクリーン
- 10:00～ 企画ワークショップ②
- 12:00～ 各自ランチ
- 13:00～ 企画ワークショップ②
- 15:00～ 公開プレゼンテーション
- 16:00 終了



AFTERTWARDS

参加者のその後



フェーズ1 学び・遊び・趣味で関わる

- ・ 東京にいながら、プロジェクト実行に向けて、企画やデザインに関わる
- ・ 茨城での実行時には、学びや仲間との時間を共有するため、茨城に足を運ぶ
- ・ 都内あるいは茨城で開かれる茨城のイベントに頻繁に参加するようになる



企画・実行に向け、チームで企画合宿



フェーズ2 プロボノ的に関わる

- ・ 茨城で主体的にイベントや場づくりを仕掛ける
- ・ 空き家や空き蔵を活用しはじめる
- ・ 企業の手の届かないところの企画・運営を行う（水戸 HH パブリックビューイング、かすみがうら未来づくりカンパニーのクラウドファンディング PR イベント等）



筑波山への登山に足しげく通う



フェーズ3 仕事として関わりはじめる

- ・ 実力を認められ、パートナー企業のデザインや WEB 制作をするなど、企業と仕事上の関係性ができる
- ・ 茨城移住事業に関わるイベントやプロジェクトのロゴや HP 制作、イベント手伝いなど、運営側に回りはじめる



筑波山の古民家を活用したイベント出店



フェーズ4 移住・二地域移住をしはじめる

- ・ 茨城に実際に移住する
- ・ 茨城で実際に仕事をする
- ・ 地域おこし協力隊として働きはじめる
- ・ 二地域居住をしはじめる



水戸ホーリー・ホックのパブリックビューイング企画・運営



パートナー企業のゲストハウスのロゴ制作



if design project のリーフレットやパンフレット制作



if design project



Uターンして、大洗で就職

INTERVIEW

参加者インタビュー

過去、if design project にご参加された方々へインタビューを行い、if design project を受けたきっかけやここで得たものなどについて伺った。



坂本 祐二さん

スポーツ

(ツーリズム x 地域、地域コーディネーター)

第1期実施後、テーマとなっていた城里町の地域おこし協力隊にスカウトされ、地域おこし協力隊として活動中。



飯塚 菜月さん

農

第2期実施後、運営事務局の紹介等もあり、水戸市の企業へ転職。Uターンを果たし、地域との関わりを続けている。



石井 翔太郎さん

海

第2期終了以後も、自らが提案した

「大洗カオス」実現に向けて、鋭意活動中。

大洗カオスのホームページ

<https://oaraichaos.com/>



フィールドワーク、講義、ワークショップ、そして公開プレゼンテーションと、プロジェクトを通して、ひとつひとつのプログラムが丁寧につくられているのがとてもよかったです。第1期では、各プログラムは月1回の開催のため余白が多くて、3ヶ月を通してみると参加者が自由に活動できる時間もありながら、その間、運営事務局にもしっかりサポートしてもらえたのも大変有難かったです。メンターからは、行き詰っていると「1度やってみなよ！」と後押ししてくれたり、挑戦したことへのフィードバックをもらったり、常にサポートしていただけたのが心強かったです。

そのためもあってか、私が第1期で所属していたテーマ「スポーツ」のチームでは、机上でミーティングをするだけでなく、何度も東京と茨城を行き来して企画を練り、現地でイベントを開いたりと、自主的な活動がとても多かったように感じます。はじめは考えが合はずまとまりのなかったチームでも、段々と仲間意識が生まれ、常にモチベーション高く参加することができました。

また、第3期では、半事務局側として「地域コーディネーター」の立場で参画しました。運営側にも関わることでま地域でプロジェクトをまわすという経験をできましたし、一歩引いたバランス役での参加の予定が、チームの熱気に触発されて気がついたらしっかりチームの一員になっていて改めて関係人口になる過程を身をもって体感することができました。

元々地域コミュニティに興味があり、大学の卒業論文では「地域との繋がり」をテーマに執筆したりと、地域の活動に興味がありました。水戸出身ということもあり、地元茨城に関わることができるならと思い、応募しました。

if design project では、プランを作りながら、色々な仕事や経験を背景にした意見が出てくるところを見ていて、会社の中だけでは分からず世界を知ることができたのが良かったです。

大学4年間は、何か実践してみたいなとは思っていましたけど、勇気が無くて行動に移せませんでした。でも、if design project には茨城や地方のために本気で活動しようとしている方たちがいる。それを目の当たりにして、『どうか、実践していいのか』と気づき、自分が閉じこもっていた『学ぶ』という部屋から外に出ることができました。

ここで得たものを絶対ゼロにはしたくないので、どんな形でも次のことへと繋げていきたいと思います。それがイベントになるのかプロジェクトになるのか、どんなものになるのかはまだしっかり考えられてはいませんが、良い学びがあって終わり、ではなく、実践に繋げていきたいですね。

大学卒業後、ロンドンに暮らしていましたが、たまに日本に帰ってくると、昔おばあちゃんに行っていた場所が無くなっていたりするんですね。単純に悲しい。そんな地域を『デザインの力で盛り上げができるんじゃないかな』というのを、ずっと考えていました。地域に関われるチャンスがあるなら場所は選ばなかったけど、希望としては自分が育ってきた茨城県。だから、if design project を知った時は、すぐ申し込みました。

自分はチーム内で年長だったこともあり、全員がちゃんと意見を言える場にしていくため、KPT※を企画して、チーム内の問題をみんなで解決して行きました。『自分は何ができるか分からない』という人がいればみんなで相談したり、逆に自分たちの強みも認識していました。

30代になって、情熱をもって何かに取り組む人に出会うチャンスってなかなか無いと思うんですよ。みんな、普段働いているのにすごい熱量で取り組んでいました。自分一人ではできないことでも、みんなで『やろう！』という雰囲気で実行できたのも良かったですね

※KPT：チーム内で KEEP（よかったこと）、PROBLEM（問題点）、TRY（次に取り組みたいこと）を付箋に貼り出しながら振り返り、現状分析や次にやるべきことを明確化していく手法

EXPANSION

if design project の広がり



if design project の PR
ツール制作

施設プランディング

商品デザイン

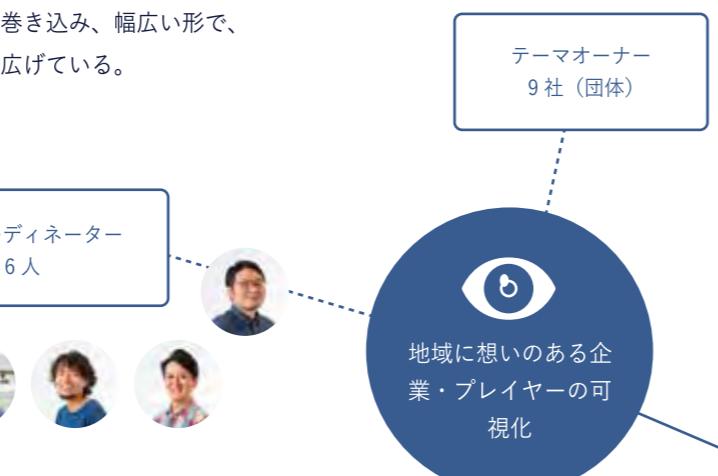


仕事

if design project は、企画を提案して終わりではなく、
東京圏の意欲ある人材を巻き込み、幅広い形で、
茨城県との関係づくりを広げている。



地域コーディネーター
6人



テーマオーナー
9社（団体）

地域に想いのある企
業・プレイヤーの可
視化



コミュニティの
広がり

非公開 Facebook
グループ 104 人

茨城県の別 PJ 参加
(STAND IBARAKI)

市町村への
関係拡大



参加者同士が結婚



地域への人材育成

他の地方で地域活動の
展開・移住



スポーツ

水戸 HH と連携したパブリックビューイングの企画運営

他の地方で地域活動の
展開・移住



ス

ポ

ル

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ

ツ



第1期 集合写真



第2期 集合写真



第3期 集合写真



主催

茨城県



常陽銀行

協力

常陽銀行

ReBITA

企画・プロデュース

株式会社リビタ

「くらし、生活をリノベーションする」をコンセプトに、既存建物の改修・再生を手がける。近年では、シェアスペース運営等を通して培ったコンテンツ企画等のノウハウを生かし、地方との関係人口創出など、地方と連携した事業も担う。

茨城移住計画
IBARAKI MIGRATION PROJECT

運営サポート

茨城移住計画

茨城出身者が有志で立ち上げた活動。
茨城県内の活動を紹介するとともに、新しいプロジェクトの立ち上げサポートや、東京圏にいる茨城に興味がある人のコミュニティ化を図る。コンセプトは「お盆と正月以外に帰る1日を増やす」。